



KUMAMOTO

The Weekly Bulletin
GREEN Rotary-Club

Kumamoto green rotary-club district 2720 rotary international

国際ロータリー 「奉仕しよう みんなの人生を豊かにするために」

R.I. 会長 シェカール・メータ

地区方針

「ロータリーのパワーは親睦が生み出す！

あらゆる場面で親睦の機会に～話しかけよう～」

R.I. 2720 地区 ガバナー 大森克磨

熊本グリーンRC 「繋げよう・伝えよう 希望を！」

熊本グリーンRC会長 田中純司



奉仕しよう みんなの人生を豊かにするために

2021～
2022年度
テーマ

■例会日：毎週月曜日 18:30～19:30
 ■例会場：熊本市中央区城東町4-2 熊本ホテルキャッスル
 TEL096-326-3311

■創立：平成元年2月22日 ■会長：田中純司 ■幹事：田中慎二 ■会報担当：江上泰弘
 ■事務所：熊本市中央区城東町4-2 熊本ホテルキャッスル内
 TEL096-354-4521 FAX096-354-4053 E-mail:kgrc@serc2720.org

国際ロータリー
第2720地区

熊本グリーンロータリークラブ週報

令和3年12月6日

第1428回

2021 - 2022 年度 第15回

【例 会】

★コロナウイルス感染防止の為、ロータリーソングは「マスク着用」にて歌唱します。

- ・「君が代」(第1週目)
- ・「君と語ろう」(熊本グリーンRCの歌)

1. 閉会・点鐘 18:30

2. 食事と交歓

友情の握手

*今年は暫く「グータッチ」で行います。

会長スピーチ (田中純司 会長)

先週はお休みでしたが、11/26の金曜日に熊本第3グループのインターシティー・ミーティング(IM)がここホテルキャッスルで開催されました。熊本グリーンロータリークラブからは5名の登録で、山口会員が「ロータリーに入会して思うこと」を発表されました。これは第3グループの8ロータリークラブの入会年度の若い会員に発表してもらうもので、改めて、「ロータ

リー活動”について共に学び考えてみるようになります。もう少し多くの会員に参加してもらえたらよかったと思いました。この発表の中で、ロータリアンとしてお願いされたことは「yes」と答える。出席は100%(メーキャップを利用しながら)を実践している会員が多かったように感じました。入会したいきさつや理由は色々ですが、基本的なことは実践しようと考えられているんだなとも感じました。次回は入会年度の若い会員には是非出席していただければと思います。

また、堀川貴史ガバナーエレクトの講演がありました。演題は『ロータリーも世界もつながりで溢れている』～親睦で培った信頼できる仲間たちと何か良いことをしましょう～でしたが、ご本人の経歴紹介の中で2011年度の九州新幹線開業記念駅伝のくだりがあり、当時の仙波ガバナー補佐の指導力をたいへん褒められていました。さらに、プレゼンボードの中に「入りて学び、出でて奉仕を」との文言があり、聞

グリーンロータリー・クラブの例会日がきても、出席するかどうか決めるには及びません。

というのは、私にとって出席は決まりきった事だからです。これは、ロータリーに入会したとき受入れた義務の一つです。

卓 話 予 定

- 12/13 「クリスマスに子ども達に絵本を贈る会について」代表 吉田 美樹 氏
 12/20 「年忘れ家族会」ホテルキャッスル2F (★例会中に「年次総会」開催
 12/27 例会休会「定款第7条第1節に基づき」
 1/7 (金) 「熊本市域17RC新春合同例会」12:30～ホテルキャッスル

【熊本グリーンRC ホームページアドレス】 <http://www.kg-rc.com/>

いたことがあるフレーズだなと思い、我がクラブの”クラブ現況を報告及び動計画”を開くと、2007~2008年度の甲斐田会長のクラブテーマそのものでした。仙波会員・甲斐田会員共々、ガバナーにも影響を与えられる人が身近にいらっしゃることを誇りに思いました。

IMについて簡単に説明します。アイ・エムとは都市連合会(Intercity Meeting)のことで、近隣都市数クラブが集まって親睦・情報教育その他の目的で行われている数種のロータリー会合を総称する用語です。一会合の固有名詞ではないがIMと略称されよく用いられています。従来の都市連合ゼネラル・フォーラム(IGM)も厳密にはIMの中の一會合ですが、最近では広義のIMの名称で開催されているところが多くなっています。ここでの決議や決定はありません。

幹事報告 (田中 慎二 幹事)

■ 報告事項

「松木良介展~くらしと街のデザイン~」
期間:2021年12月20日(月)~2022年2月19日(土)9:30~16:30(日・祝日は休館)
場所:「肥後の里山ギャラリー」
(肥後銀行本店 1F)



■ 報告事項 (その他のロータリー関係)

2024~2025年度ガバナーノミニー・デジグネート(ガバナー候補者)の決定お知らせ
熊本りんどう RC 三村彰吾(みむら しょうご)氏の推薦があがりました。12/4にガバナー指名委員会が開催され、協議の結果、ガバナーノミニー・デジグネートとして指名されました。期日までに他の候補者の推薦もなく他候補者の指名もありませんでしたので、三村氏で決定となります。

[例会変更・取り止め]

<例会変更>

[熊本江南 RC]

- ① 12月8日(水)の例会は、忘年例会のため、同日18:00より、ザ・ニューホテル熊本にて行います。
- ② 1月5日(水)の例会は、新春合同例会のため、1月7日(金)12:30より、ホテルキャッスルにて行います。

[熊本北 RC]

12月21日(火)の例会は、年忘れ家族会のため、同日18:00よりホテルキャッスルにて行います。

[熊本'05福祉 RC]

12月21日(火)の例会は、年忘れ家族会のため、同日19:00より四季彩「かぐや」にて行います。サインメーキャップは行いません。

[熊本平成 RC]

- ① 12月22日(水)の例会は、クリスマス家族例会のため、同日19:00 ANA ホテルニュースカイにて行います。サインメーキャップは行いません。

② 1月5日(水)の例会は、新春合同例会のため、1月7日(金) 12:30より、ホテルキャッスルにて行います。

<例会取り止め>

[熊本江南 RC]

12月29日(水)の例会は、定款第7条第1節に基づき、取り止めます。サインメーカーキャップは行いません。

[熊本北 RC]

12月16日(木)の例会は、定款に基づき、取り止めます。サインメーカーキャップは行いません。

[熊本'05 福祉 RC]

12月28日(火)の例会は、定款第7条第1節に基づき、取り止めます。サインメーカーキャップは行いません。

慶 事 (河野景治クラブ管理運営委員長)

12月お誕生日祝い

河島 一夫 S27.12.16

本田 美保 12.30



出席報告 (宮部 康弘会員)

	会 員 総 数	22 名	出席 率
12 月 6 日	出席免除会員数	1 名	59. 09%
	計算上会員数	22 名	
	出席会員数	13 名	
11 月 8 日	前回の出席会員数	13 名	68. 18%
	メイクアップ数	2 名	
	修正出席会員数	15 名	
メイクアップ済み会員及びメイクアップ訪問先			
・ 11/19 IM 山口 君			
・ 11/30 熊本東 RC 田中(慎) 君			

委員会報告

「グリーンRC週報のコラム欄について」

公共イメージ委員長 江上 泰弘 会員

熊本グリーンRCの週報に少し余白ができましたら、「グリーン豆知識」として何でも良いので、ちょっと為になるとか、ちょっとした話の種になる様な文章を掲載したら良いのではないかと提案がありました。早速、今日の週報に仙波会員より寄せられた豆知識を載せております。皆様の投稿をお待ち致しております。

(今週は5Pに掲載)

スマイル (荒木 一之 会員)

●田中 純司 君、田中 慎二 君
栗山 義則 君、荒木 一之 君

「早いもので、12月に入りました。会員の皆様はお変わりなく過ごされている事と安心しております。昨日、12月2日、次期ガバナーの堀川様と、熊本第3グループのガバナー補佐の榎様と会長エレクト8名の懇親会が有りました。次期会長それぞれ、気合いを入れられ気を引き締めました。本日の卓話の本田さん宜しくお願い致します。」

●松村 秀逸 君

「本日の卓話者、本田悟士様に心から感謝しスマイル致します。」

●宮部 康弘 君

「本田会員の卓話で当クラブの歴史を知る機会に感謝します。」

3. 例会プログラム

卓話者 本田 悟士会員

演題

「広安愛児園学習支援事業について」



本田 悟士会員

皆様こんばんは。

思い返せば、蔓延防止措置の延長に伴ってコロナ禍の休会が延びるのを何とかしく歯がゆくおもいつつも、もともと9/27の卓話プログラムを任された身としてはこの際・・・とも考えていました。申し訳ありません。まずその旨懺悔して、卓話をはじめさせていただきます。

さて、今回の卓話を任された趣旨は、当職の職業に関連してというのではなく、ロータリーの中核的価値観(奉仕、親睦、多様性、高潔性、リーダーシップ)の一つでもあり、ロータリークラブ活動の土台である「奉仕」に関して、若手会員に実際の活動例をお伝えし共有する意図にでたものであったと理解しています。確かに、奉仕5部門クラブ奉仕

会員同士の関係をはぐくみ、積極的な会員増強計画を実行して、活気あるクラブ作りを行うこと

職業奉仕

倫理と高潔さをもって仕事にあたり、職業の知識やスキルを社会のニーズ解決のために進んで役立てること

社会奉仕

地域の人々の暮らしを豊かにし、よりよい社会作りに貢献すること

国際奉仕

国際的なプロジェクトでボランティアをしたり、海外のパートナーとの共同活動を通じて、平和と相互理解を推進すること

青少年奉仕

青少年や若い世代の社会人がリーダーシップ能力を伸ばせるよう支援すること

について実際の活動例、活動歴が共有できると、熊本グリーンロータリークラブとして一体性の醸成や、これからどのように活動していくか、提案や検討の参考にもなると思い、僭越ながらお引き受けした次第です。特に、このコロナ禍にあって、対外的な活動・交流を伴う活動が大きく制限されているなかにあっては、そもそもロータリークラブの存在意義や、ロータリアンであることの自覚や充実が希薄化しかねません。そのような中でも(特に、当職の場合、途中に4年間の幽霊会員時代があるにもかかわらず)、ロータリアンであり続けてきたことの一つは、クラブとしての「奉仕」の経験と記憶があったからやもしれませんので、お話をさせていただきます。

私の最初の奉仕体験は、まさに本日のテーマである「広安愛児園」学習支援事業の担当をさせていただいたことでした。

同事業は、熊本グリーンロータリークラブ創立20周年事業として立ち上げられ、平成21年3月から平成24年3月までの3カ年事業として実施されています。

当職が入会したのが平成20年7月のことですので、入会早々、周年事業に駆り出されたわけです(入会と長男が生まれたのがほぼ同時期(平成20年10月)で、その子がいま中学一年生・・・時の経過が感慨深いですね)。

同事業は、児童養護施設(児童福祉法41条に基づく施設で、何らかの事情で親と生活できなくなった子供達、環境上適切な養護を必要とする子供達(概ね2~18歳)が家庭に代わり毎日の生活を送るところ)に預けられ親と離れて生活する子供達の能力向上と将来の選択肢拡大を目指したものでした。

小学6年生から中学生を対象とし、講師を派遣して週2回各2時間学習指導を行い、継続的な学習支援により、学習レベルを向上させ、進学や就職等の選択肢を広げようとしています。

ところで、このように新たな事業を検討するにあたっては、まずそもそもの立法事実といえますか・・・具体的なニーズを把握していたり、あるいは、(いま社会が明確には必要としていなくとも)構想者が積極的に描くビジョン、未来があり、かつこれが重要だと思うのです。

ただ、同事業の検討段階では当職がクラブ未入会でしたのでよく知らず、今回、当時20年の節目の会長を務められていた上田観一会員にお尋ねしました(ちなみに、上田会長(当時)からお声かけ頂いて入会した経緯があります。)

20周年記念事業を検討していた際に、上田会員が以前より聞き及んでいた養護施設やその児童・生徒がかかえる問題におもいあたり、腰を据えた継続事業として3年かけた学習支援を提案したとのこと。かかえる問題というのは、養護施設の性質上、18歳までしかいることができないこと、ここに預けられた子供達は塾に通ったり家庭教師をつけてもらうことはもちろんできず、そうでなくとも、自ら学習したり、その努力を誉められる経験に乏しく、なかなか勉強ができないことに(自覚的にせよ、無自覚にせよ)苦しんでいることです。

上田会員の隣人に九州学院の先生がお住まいでその方が広安愛児園の仕事

もされていたか関わりがあったらしく、話をきき以前より知っていたというのです。

もともと当クラブは、継続事業として、グリーンおじさん奨学金事業(H6.4~H9.5:熊本在住・熊本出身の子供の中で、アジアからの私費留学生及び中国残留孤児子女に絞って奨学金を支給し、あわせてカウンセリング制度を設けて物心両面からの援助を行うもの)や華友会支援事業(H10.7~H24.6:中国帰国者の日本語教室支援。)などの経験があり、イベントとしての単発的な支援ではなく、継続して子供を、人を育み、支援することに深い理解と関心と熱意を有していたのだと思います。

当職が関わる前のことですので、私が誇るのも筋違いですが・・・それでも誇らしいことと思います。

ともかく、前記ニーズを把握していた上田会長(当時)の提案が採用され、事業費年60万円、3年で総額180万円という、会員30名前後の当クラブにとっても大きな事業がスタートした訳です。

スタートにあたっての先方との調整も上田会長(当時)方が尽力されたものです。

このようにして始まった広安愛児園の学習支援事業ですが、対象者は小学6年生3名(3月スタート。事業終了時に中学3年生)とされています。

おもうに、3年間にわたり同施設の生徒全員を対象にするだけの時間・回数・講師を確保することはできません。そのような中で、学習の質が変わり、かつ、進路選択に大きく影響する中学3年間をターゲットにしたことはやむを得なかったものと考えます。

同園に週に2回2時間講師を派遣し、生徒達への学習支援を行いました。

講師には、当時、アクトで深い関わりのあった熊本県立大学の学生の協力を得ています。

学生さん達ですので、直接に園とで

調整できないこと、トラブルもあり得るほか、生徒の指導状況をスーパーバイズする立場も必要と考えたのだと思いますが、この役割で担当をさせていただいたのが当職でした。

定期的な報告や教材購入などで月1回、講師らと集まり、園に当職が出向いたこともありました。

生徒達に勉強の習慣がそもそも身につけていなかったこともあり、机に付かせるのも大変な状態だったと聞いていますが、もともと教員志望の学生も講師に参加しており、辛抱強く指導にあたってくれました。

平成24年(2012年)4月9日例会にて3年間の事業報告を講師2名にさせていただいておりますので、その際の週報をごらん頂けると幸いです、若干ご紹介致します。

1年次

開始当初は授業への集中が難しく、席につこうとしないこともあった。テストで徐々に点数が上がってきたこともあり、積極的に授業に臨むようになった。勉強することでの成果が点数などで表れると、それが勉強への積極性につながっていったようである。(一方で)学習という取り組みや指導を行っている講師側にも慣れてきたことで、騒がしい雰囲気になることが増えてきた。

*その他具体的指導状況・対策の紹介

2年次

テスト前にはテスト対策も適宜入れ、基本的には学校の授業とリンクさせる形で進めている。

指導する場所を変更し、園の先生方からも見える場所での学習になり、緊張感も増すことになった。

生徒間で違うプリントや作業をさせることへの文句、他の生徒達が自由に行っている時間になぜ勉強しなければならないのかという気持ちから不満なども示されるようになり、繰り返し説明を

した。

*その他具体的指導状況・対策の紹介

3年次

高校受験の年ということで、受験対策の問題などにも挑戦し、気持ちは受験に向けられていった。

生徒の学力、性格に応じて指導方法を変えて向き合った。週2回の講師時間では足りないと判断したので、受験対策テキストを各自に渡し宿題を与えて指導するようにもした。結果、計5名の県立大学学生の指導を経て、生徒達は成長し、受験を迎え志望高校に合格して進学していきました。

支援にあたった講師の学生達も、「3年間、彼らを見守れたことに大きな喜びを感じる。勉強面だけではなく、一個人として、わずかな時間でも、生徒達が成長したなと感じる瞬間があった。この取り組みを通して、彼らに出会うことができ、成長を見届けることができたことは、学生生活の中でも貴重な体験だったと感じる。」と感想を述べていました。

継続的な支援は、単発でお金だけを出す支援と異なりあるいはそのような支援(もちろんそういった支援も重要ですが)以上の、相手方や事業そのものへの理解と積極的な関与、そして忍耐が必要と痛感します。

本件支援事業も、お金で参考書や問題集を購入し、これを配布するだけでなく、より少ない予算で、もっと多くの生徒にリーチでき、購入・配布実績自体はかさを増したことと思います。

しかし、子供の責めに帰すことのできない事情で親元を離れて生活し、学習の習慣も身につけていなければ、各人それぞれの努力や成長をつぶさに見て誉め、あるいは叱ってくれる機会に乏しい子供達にとって、参考書や問題集のみが降ってきたところでどれだけの意味があるのでしょうか。

この支援事業は異なります。

学習成果、進学という目に見える結果だけではありません。「愛着」「あたたかいつながり」「信頼関係」を特定の人と結ぶ経験が得られたことが、自己肯定感や自尊心を育てることにつながります。認められる、生きる価値のある人間だと無意識のうちに持つことができ、安定した人間関係を形成していくうえでも非常に重要なことです。

裏を返すと、この3年間の事業を途中で打ち切っていたらどうか。

裕福な、お金に余裕のある大人の集まりが、興味本位で“応援”してくれたが、飽きてあるいは諦めてどこかへ行った。見捨てられた、見限られた、そのような経験を人生において何度もさせるべきではありません。

成果が短期に目に見えて上がったわけではありません。また、多数の子供達を支援できたわけでもありません。

そのような、効果が見えにくくかつ地味な事業に、多額の費用を投じ、これを継続してあたたかく見守り、これをやり遂げた当クラブについて、このような言葉を、重ねて当職が使うのもおこがましいのですが・・・誇りにおもいます。

これまでもそうですし、これからもそうです。

近年、比較的若い会員の新入会が相次いでいます。喜ばしいことです。

しかし、ロータリーがなんであるのかもよくわからないまま入会したものの、そのようななかコロナ禍で親睦・奉仕の機会が制限されて、いっそう困惑し、目的も見いだせなくなっているのは不幸なことです。

これまでの活動を共有し、新しい活動を創り出し、取り組んでいきましょう。

ロータリークラブの魅力のひとつは、仕事も経験も年齢も異なる大人が、それぞれを尊重し、それぞれに刺激をう

けながら、各自に研鑽と奉仕に励むのみならず、クラブとしておおきなあたたかい手をさしのべる。何かをなすところにあります。

クラブに所属していると、職業奉仕、社会奉仕の経験・訓練が自ずとできます。それが偽善であっても、これを繰り返すうちに真の善に至るようにおもいます。

大森ガバナーを超える4年にわたり幽霊会員であった私が今もなおロータリアンである訳、これは当クラブ会員それぞれの人柄、優しさ、あたたかさに負うところが非常に大ではありますが、それだけではなく、やはり、自分のありよう、生き方から、ロータリアンとしての親睦・奉仕の筋を通したい、これを失いたくないという思いがあるからです。

みなさまと、また、さらに増えていく新しい仲間と、これからも奉仕に取り組めることが楽しみでなりません。

これからもどうぞよろしくお願い致します。

4. 閉会・点鐘

* 例会終了後

「定例理事会」開催

【グリーン豆知識】

体格指数 (BMI)

いわゆる肥満度を表す数値です。体重 (kg) を身長 (m) の二乗で割った数値です。数値が 22 に近ければ理想で、18 未満であれば筋肉量が少なすぎ、25 を超えると肥満です。一度あなたも計算してみてください。ついでに奥様も。

(仙波)

子供と一緒に収穫体験-2770地区-

第 2770 地区(埼玉県南東部)では 11 月 4 日、有志の米山奨学生・学友らがこども園の芋掘り行事を手伝いました。

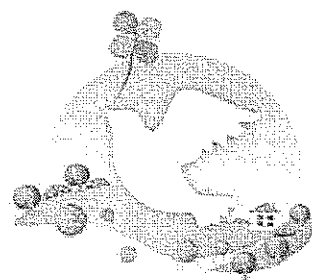
同園では新型コロナウイルスの影響で父母 たちへ行事補助を依頼することができず、先生 方の負担が増えていました。そうした中、米山奨学生らが畑までの道のりを付き添い、子どもたちの安全を見守ったり、園児が掘りやすいよう畑の土をほぐすなどサポート。

平日開催のため、参加者数は限られたものの、奨学生からは「こんなに素晴らしい体験をさせていただいて嬉しい」、「また子どもたちに会い畑主のご厚意で奨学生も大根掘りに行きたい」といった声が寄せられました。また、子どもたちも、「昨日のお芋掘りは楽しかった」、「お兄さんたちと掘ったお芋おいしかったよ!」と、口々に話していたということです。

同地区米山記念奨学部門委員長の藤嶋剛史氏は、「今年もさまざまな行事が中止になるなか、屋外で開催できる行事を開催できてよかった」とし、今後も感染状況を注視しながら徐々に交流を再開したいと話しており、来年 1 月には初の試みとして、書き初め会を開催予定だとのことです。



子どもたちをサポートする奨学生



畑主のご厚意で奨学生も大根掘り